

2007 年度

2年連続入賞ならず

全日本実業団駅伝 (群馬県: 100km)  
4時間54分04秒 (10位)

# 大塚製薬10位



「一つのミスが命取りになる」。レース前の河野監督の言葉が現実になつてしまった。5区、10位でたすきを受けた片岡が、2秒先を行く9位の富士通を追いかけてコースに出た。

しかし、5区を走ったあたりで、片岡は腹痛に襲われる。「急に足が進まなくなった。前半のいいチームの流れを切ってしまった」。出るのは反省の言葉ばかり。6区へのたすきリレーは9位と26秒差にまで広がった。この流れを断ち切ることができずに、レースは10位で終了。片岡の後をつないだ6区北川は「一つも順位を上げられずに申し訳ない」。アンカー尾池も「入賞を目指して

スタートしたが、追いつけなかった」。ともに悔しさを口にした。

「前半は入賞争い圏内に粘り、後半に一つずつ順位を上げる」。4区までは、ほぼ河野監督の描いたレース戦略で進んだ。エースが集まる最長22区の2区で、井川が区間5位の快走。チームは6位に浮上した。続く、3区では強力な外国人選手がひしめく中、井幡が粘ってチームは12位で踏みとまった。4区でも岩佐が区間5位の走りで順位を2つ上げた。

連続入賞は逃したが、外国人選手を擁していないチームでは、準優勝した中国電力に続いて2位。「1ヶ台の順位に定着できるチーム」(河野監督)には確実に近い。

(滝川)